



## EBM 特別委員会 4 年間 (2005-2009) の経緯

つたにきいちろう

津谷喜一郎 (東京大学大学院薬学系研究科医薬政策学)

エビデンスは、それを「つくる」「つたえる」「つかう」というステージに分けると理解しやすい。「エビデンスに基づく医療」(evidence-based medicine: EBM)はその定義上、エビデンスを「つかう」立場のものである。

エビデンスは漢方薬などについても必要と認識され、2001年6月に前会長・石橋晃(現会長・石野尚吾)のもとにEBM特別委員会(<http://www.jsom.or.jp/html/ebm.htm>)が設立された。第1期の委員長・秋葉哲生を中心として「よい臨床研究」が各種データベースを用いて1986-2002年について検索され、2005年7月に『漢方治療におけるエビデンスレポート』が学会誌の別冊号として発行された。

同2005年6月からの第2期は津谷が委員長に就任した。この時期から学会の組織体制が変わり秋葉がEBM特別委員会担当理事となった(2007年6月からは杉山貢がこの任にあたった)。第1期のプロジェクトは、エビデンスレポート・タスクフォース(ER-TF)として引き継がれ、「つたえる」の領域で、よりシステムティック・レビューに近いアプローチが採られた。1999-2005年のRCTに限って収集し、構造化抄録を作成し、「漢方医学的考察」、「論文中の安全性評価」、署名つきの「アブストラクターのコメント」も付し、『漢方治療エビデンスレポート第2版中間報告2007』として2007年6月に上記のwebサイトで公開した。若干の修正をして98件のRCTを含むものを2008年4月にver. 1.1として公開している。さらに2006年以降に約50件、また1986-1998年に約180件が見つかり全体で約300件になり2009年6月掲載を目指してweb版を作成中である。英文版も作成中で1999-2008年分は2009年6月にはwebで公開される予定である。なお1986年は現行の漢方製剤の品質基準が設定・実施された年である。それ以前はいくらか歴史的なものになる。

漢方医学は長い歴史をもつが、すべてのエビデンスがRCTによって「つくれ」たわけではない。そこで同じく2005年から、ノルウェーや米国NCI(国立がん研究所)の例をモデルにして「劇的に効いた」一例報告を集めて公開するベストケース・タスクフォース(BC-TF)を立ち上げた。エビデンスの強さのグレードは低い、これを探索型の研究と位置づけている。一例報告としての質が高ければ、それを「つたえる」ことにより意思決定に用いることができるものである。日本で年間120万人が服用する「葛根湯プロジェクト」としてシステムを構築した。ユーザーフレンドリーなシステム設計が今後の課題である。

2004年に世界保健機関西太平洋地域事務局(WHO/WPRO)が伝統医学の診療ガイドライン(clinical practice guidelines: CPG)を作成するプロジェクトを開始した。CPGはエビデンスをシステムティックレビューし、エビデンスのグレードと「お勧め度」のグレードを明らかにして「つたえる」ものである。そこで診療ガイドラインタスクフォース(CPG-TF)を立ち上げ日本東洋医学サミット会議(The Japan Liaison of Oriental Medicine: JLOM)を介して対応した。各国間で伝統医学システムや薬事行政に違いがある。困難な作業であったが、当初のWHO/WPROの方針を修正させ2007年12月に“A Guide for Development of the Clinical Practice Guidelines for Traditional Medicine”を香港で完成し公表を待っているところである。また日本のCPGの中で漢方薬を含むものをレビューしwebで公開した。上記のエビデンスレポートのRCTとリンクしている。ここで漢方薬のエビデンスがあるにもかかわらず、CPGで取り上げられていないことも明らかになった。CPG作成者への広報を進めている。

### 参考文献:

- 1)津谷喜一郎. 伝統薬の比較試験の歴史と現状. 医学のあゆみ1985; 132(2):103-6
- 2)津谷喜一郎, 秋葉哲生, 他. 漢方のEBMはどうあるべきか? 第57回日本東洋医学会学術総会シンポジウム記録. 日本東洋医学雑誌 2007; 58(3):433-73

### 略歴

1972年	東京工業大学工学部経営工学科卒業	1990年	発展活動に従事
1979年	東京医科歯科大学医学部卒業		ハーバード大学公衆衛生大学院・武見国際保健講座・研究員
	同年より、北里研究所・附属東洋医学総合研究所にて内科・漢方医学研修	1992年	東京医科歯科大学難治疾患研究所・情報医学研究部門(臨床薬理学)・助教授
1983年	東京医科歯科大学大学院(臨床薬理学)修了、医学博士	2001年	東京大学大学院薬学系研究科・医薬経済学・客員教授
1984年	WHO西太平洋地域事務局(マニラ)・初代伝統医学担当医官として域内の伝統医学の普及・	2008年4月	同医薬政策学・特任教授

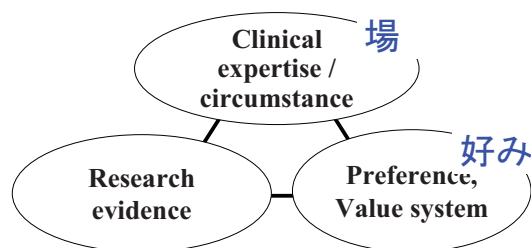
## EBM特別委員会4年間 (2005-2009)の経緯

第60回日本東洋医学会総会  
フォーラム「漢方のエビデンスを『つたえる』」  
2009.6.21(日), 東京

津谷喜一郎<sup>1)2)</sup>

- 1)日本東洋医学会EBM特別委員会委員長
- 2)東京大学大学院薬学系研究科医薬政策学

## Evidence-based Medicine is ..



1996/1997 “the conscientious, explicit and judicious use of current best evidence in making decisions about the care of individual patients”

2000 “the integration of best research evidence with<sup>3</sup> clinical expertise and patient values” Tsutani K 2009

## 日本東洋医学会EBM特別委員会

第1期 (2001-2005) 秋葉哲生  
漢方治療におけるエビデンスレポート  
「よい臨床研究」

第2期 (2005-) 津谷喜一郎  
エビデンスレポート・タスクフォース  
診療ガイドライン・タスクフォース  
ベストケース・タスクフォース

## 日本東洋医学会EBM特別委員会のtask

Evidenceを  
つくる 臨床研究 case study からRCTまで

つたえる TF1: Evidence report  
TF2: Best case  
TF3: Clinical Practice Guidelines

つかう Evidence-based medicine

### 日本東洋医学会 EBM特別委員会

2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

委員長: 秋葉哲生

委員長: 津谷喜一郎

「漢方治療におけるエビデンスレポート」作成

エビデンスレポートタスクフォース (ER-TF)  
(Chair 岡部哲郎)

ベストケースタスクフォース (BC-TF)  
(Chair 木元博史)

診療ガイドラインタスクフォース (CPG-TF)  
(Chair 津谷喜一郎)

担当理事: 秋葉哲生

担当理事: 杉山真

学会長: 石橋晃

学会長: 石野尚吾

### 第1期 EBM 特別委員会 (2001-2004年度)

委員長	1名
委員	5名
手法検討委員	5名
報告書執筆委員	2名
アドバイザー	1名
論文評価参加者 (上記との重複あり)	57名
total	61名

### 第2期 EBM 特別委員会 (2005-2008年度) エビデンスレポートタスクフォース

委員長	1名
Chair	1名
メンバー	9名
オブザーバー	2名
total	16名

Special Committee for Evidence-based Medicine (EBM)  
The Japan Society for Oriental Medicine (JSOM)

	ER-TF		CPG-TF		Best Case-TF	
Chair	MD	1	MD	1	MD	1
Member	MD	10	MD	2	MD	4
	Pharmacist	1				
	Librarian	1				
Adviser			MD	1		
Observer	Industry	2	Industry	1	Industry	1
			Librarian	1	MD	2
					Consumer	1
Total		15		6		9

ER: Evidence Report, CPG: Clinical Practice Guideline

Special Committee for Evidence-based Medicine (EBM)  
The Japan Society for Oriental Medicine (JSOM)

Chairperson	MD	1
Member	MD	18
	Pharmacist	1
	Librarian	1
Adviser	MD	1
Observer	MD	2
	Consumer	1
	Industry	2
	Librarian	1
Total		28

第2期 EBM 特別委員会  
エビデンスレポート・タスクフォース (ER-TF)  
構成

班長	岡部哲郎	東京大学大学院医学系研究科 漢方生体防御機能学講座
班員 (12名)	新井 信	東海大学医学部 東洋医学講座
	及川哲郎	北里大学東洋医学総合研究所 臨床研究部
	北川正路	東京慈恵会医科大学 学術情報センター 図書館
	後山尚久	大阪医科大学 未病科学・健康生成医学講座
	小暮敏明	群馬大学大学院 医学系研究科 統合和漢診療学
	後藤博三	富山大学大学院 医学系研究科 (医学) 和漢診療学講座
	詫間浩樹	日本大学薬学部 薬事管理学ユニット
	鶴岡浩樹	つるかめ診療所、自治医科大学地域医療学センター 地域医療学部門
	中田英之	財団法人東京都医療保健協会 練馬総合病院 漢方内科・健康医学センター
	並木隆雄	千葉大学大学院医学研究科 先端和漢診療学講座
	藤澤進夫	東京大学 保健・健康推進本部
	星野憲津夫	癌研有明病院 消化器内科
	オブザーバー (2名)	新井一郎
篠原 宣		日本漢方生薬製剤協会 安全性委員会
EBM特別委員会 担当理事	秋葉哲生	あきば伝統医学クリニック、慶應義塾大学医学部 漢方医学講座 (2001.6.16-2007.6.15)
	杉山 貢	横浜市立大学 附属市民総合医療センター (2007.6.15.-2009.3.9)
EBM特別委員会委員長	津谷喜一郎	東京大学大学院薬学系研究科 医薬政策学

第2期 EBM 特別委員会  
診療ガイドライン・タスクフォース (CPG-TF)  
構成

班長	津谷喜一郎	東京大学大学院薬学系研究科 医薬政策学
班員 (2名)	兵頭一之介	筑波大学大学院人間総合科学研究科臨床医学系 消化器内科
	元雄良治	金沢医科大学 腫瘍内科
アドバイザー	大澤伸郎	藍野加齢医学研究所
オブザーバー	新井一郎	日本漢方生薬製剤協会 医療用製剤会議 有用性研究部会
EBM特別委員会 担当理事	秋葉哲生	あきば伝統医学クリニック、慶應義塾大学医学部 漢方医学講座 (2001.6.16-2007.6.15)
	杉山 貢	横浜市立大学 附属市民総合医療センター (2007.6.15.-2009.3.9)
EBM特別委員会委員長	津谷喜一郎	東京大学大学院薬学系研究科 医薬政策学

第2期 EBM 特別委員会  
ベストケース・タスクフォース (BC-TF)  
構成

班長	木元博史	医療法人社団永津会 永津さいとう医院
班員 (4名)	井齋偉矢	静仁会静内病院
	川村 孝	京都大学保健管理センター
	西村 甲	慶應義塾大学医学部漢方医学センター
	小川真生	東京大学大学院医学系研究科医療情報経済学 国立がんセンター東病院緩和医療科
オブザーバー (2名)	神 久一	坂総合病院内科 (漢方科)
	佐藤(佐久間)りか	お茶の水女子大学ジェンダー研究センター
	篠原 宣	日本漢方生薬製剤協会 安全性委員会
EBM特別委員会 担当理事	秋葉哲生	あきば伝統医学クリニック、慶應義塾大学医学部 漢方医学講座 (2001.6.16-2007.6.15)
	杉山 貢	横浜市立大学 附属市民総合医療センター (2007.6.15.-2009.3.9)
EBM特別委員会委員長	津谷喜一郎	東京大学大学院薬学系研究科 医薬政策学

## EBM特別委員会の日本東洋医学会の中の位置づけ

- 常置委員会 7つ  
編集、学術教育(教科書担当)、渉外、健康保険、  
専門医制度、企画運営、広報
- 特別委員会 7つ  
学術教育(辞書担当)、健康保険問題、  
漢薬原料・民間薬調査、経穴の主治、用語、  
**EBM**、財務



13